

第4回映画産業の海外展開に関する検討会議 議事要旨

1. 開催日時 : 平成29年8月2日(金)午後3時半～5時
2. 開催場所 : 内閣総理大臣官邸2階小ホール
3. 概要 :

(1) 冒頭、萩生田光一内閣官房副長官より、以下の挨拶があった。

皆様ご苦勞様でございます。

委員及び関係者の皆様には、お忙しい中、本検討会議にご出席いただきまして、大変有り難うございます。

前回4月の会議において、私は、会議の事務局に対し、関係省庁がバラバラに施策を実施するのではなく、横串を刺して、オール・ジャパンで地域別に戦略を示していく考えを示しました。フォローアップを図れるように指示をしたところでございます。

これを受けて、今回の会議では、事務局から今後の取組みの素案について報告をさせますので、委員の皆様におかれましては、アジアや欧州の主要市場における日本映画の展開策を議論して下さいますようお願いいたします。

地域別にみますと、中国においては、昨年からの私どもの働き掛けも功を奏し、昨年は11本、本年も現時点で6本程度の日本映画が上映又は上映予定であります。

また、東南アジアでも、日本映画は人気を博しておりまして、こうした地域では、これまで海外に十分に展開できていない中小・独立系の製作映画を含め、プロモーションしていくことも一案だと考えています。

これに対して、インド、ロシア等、一部の国では、依然、日本映画の認知度が低い状況にあります。こうした地域では、日本の強みであるアニメをはじめ、まずは日本映画全体の認知度の向上を図る必要があります。その際、たとえば、来年の「ロシアにおける日本年」等、外交行事と日本映画のプロモーションを組み合わせしていくことも考えられます。

日本映画の海外展開は、映画産業においてアベノミクスを実現するという経済的な観点とともに、諸外国における日本ファンの厚みを一層増やしていくという外交的な観点からも極めて有意義です。

したがいまして、世界各国、各地において日本映画の認知度の向上、規制の除去等、私ども政府としても支援策を講じていきたいと考えております。

本日は、こうした観点から、関係省庁・法人より報告をし、皆様方から、

忌憚のない御意見を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) その後、関係省庁等より議事次第に沿って報告があり、概略以下のような意見が交わされた。

ア 国によって、日本映画の海外展開状況は異なる。切り口として、①産業的に進める側面、②日本ファンを増やすべくグラスルーツにおいて文化的な取組として進める側面の二面性を大切に、進めていくことも重要である。

イ テレビ番組によりマーケット作りが行われ、日本への認知度が向上したことを皮切りに、日本映画が進出した例もある。映画作品を俳優や監督と一緒に宣伝するのみならず、テレビ番組等日本のもつその他の魅力的なコンテンツも活用し、日本の文化を伝えていくことも重要である。

ウ 市場メカニズムが働く環境においては、製作者側が質の高い日本映画を製作して進出していくことが基本であるものの、海外への展開のための枠組み作りや環境作りのための認知度向上に向けた政府の支援も重要である。

(3) 最後に、萩生田副長官より、委員の皆様からの活発なご意見に感謝したい旨挨拶があり、閉会した。

(了)